

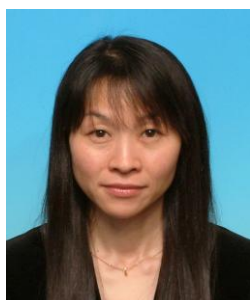
栃木県養護教育研究会・会報

平成26年6月24日

か が や き

第41号

発行者 栃木県養護教育研究会  
会長 大豆生田 聡  
編集者 栃木県養護教育研究会事務局



## 不易と流行

栃木県教育委員会事務局健康福利課  
指導主事 大森 和枝

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、児童生徒の心身の健康にも大きな影響を与えており、様々な健康課題が生じています。そのような中で、喫緊の課題の対応にとどまらず、児童生徒の健康の保持増進並びに生涯の健康を見据えた「生きる力をはぐくむ健康教育」の推進には、養護教諭の基本である保健管理・保健教育をしっかりと行うこともまた重要と考えます。日々の執務をとおして、このような「いつまでも変わらないものと時代に応じて変化するもの（不易と流行）」の重みを感じています。「不易と流行」という言葉は、ご存知のとおり中央審議会答申でも用いられています。松尾芭蕉の俳論に由来し、「不易」とはいつまでも変わらないことであり、「流行」はその時々に応じて変化することで、本来一つのものであります。養護教諭になったばかりの頃、先輩方からうかがったこの言葉の重みは、養護教諭としての経験年数に比例し、年々重くなりました。

児童生徒の心身の健康問題への解決に向けて求められる養護教諭の役割について、「平成23年度調査結果 保健室利用状況に関する調査報告書」（平成25年2月発行（公財）日本学校保健会発行）では、

- 1 多様化した児童生徒の心身の健康問題への支援及び指導的役割
- 2 健康・安全に関する危機管理における指導的役割（感染症、救急処置、疾病管理等）
- 3 いじめ・不登校・児童虐待等の早期発見、早期対応
- 4 組織的な健康相談の推進（支援計画の作成等）
- 5 学校保健センター的役割を果たしている保健室経営の充実
- 6 生きる力を育成する健康教育の推進

とありますが、感染症予防ひとつとっても、不易（手洗い等）の部分と流行（ノロウイルス発生時の消毒等）の部分が一体となっています。

「流行」が注目されることが多い中、養護教諭の職務における「不易」の部分が「流行」の部分を支えていることを忘れてはならないと思います。不易と流行のバランスを保ちながら、養護教諭としての役割を果たしていくことが重要なのではないのでしょうか。これからも先生方とともに、「変わらないもの」を大切にしつつ、時代に応じた養護教諭の役割を果たしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 全国養護教諭連絡協議会「第19回研究協議会」に参加して



宇都宮大学教育学部附属幼稚園 岩淵 千鶴子

2月21日(金)浜松町のメルパルクホールで行われました。午前中は、プラネタリウム・クリエイターの大平貴之さんの特別講演がありました。他人を喜ばせることが大好きだった少年がプラネタリウムに興味を持ち、周りからほめられるうち、ギネスにも認定された世界最高峰のプラネタリウム「MEGASTAR」を完成させるに至った経緯についての話には魅了させられました。

午後は文部科学省の岩崎信子先生から「健康教育の推進と養護教諭の役割—養護教諭の執務と保健室経営—」についての話がありました。保健室経営は養護教諭の重要な職務であり、学校全体を視野においた保健室経営計画をしっかりと立てること、養護教諭の基本である救急処置をしっかりとすること、現場では医療がわかる養護教諭が望まれていること、ぜひ学校の中で『なくてはならない存在』になってほしい、との話がありました。また、午後の後半には「養護教諭の専門性の深化を求めて」のテーマでフォーラムがありました。千葉大学の岡田加奈子先生がコーディネーターとなり、3つの小学校の養護教諭の取り組みについての発表がありました。養護教諭は様々な健康課題を的確にとらえ対応していかなければいけないこと、学校保健活動にかかわる計画・実施・評価・改善(PDCA)を行うためには、企画力・実行力・指導力・コーディネート力・マネジメント力が必要とされており、ぜひプロ意識をもってほしい。また保健室は、学校の中で子供に関する情報が一番集まりやすいところである。収集した情報から問題点を把握し、今一番に取り組まなければならない課題が何かを関係職員と協議し、それらをどう全職員と情報共有するかが、組織体制づくりには欠かせないことであるとの話でした。

帰り道の電車の中で、養護教諭の執務の重大さを改めて痛感し、養護教諭として明日から真摯にがんばっていこうと決意した日となりました。

\*\*\*\*\*



### 地区だより(上都賀地区)

日光市立今市第二小学校 塚田 優美子

上都賀地区では年に2回の研修会を実施しています。平成25年度は11月8日に、親業シニアインストラクターの大屋弘子先生をお招きして、自己肯定感を育む教育～「聞く」「語る」心を通わすコミュニケーション～と題して講話とグループワーク研修を行いました。

親業とはアメリカの臨床心理学者トマス・ゴードン博士が1962年に考案したコミュニケーションの訓練法です。心理学・教育学などの行動科学を土台にし、相手が心を開く「聞き方」、自分の思いを率直に伝える「話し方」、対立が起きたときの話し合いに有効な「勝負なし法」などを体験学習するプログラムです。会員の感想等から成果や今後の課題が見えてきました。会員の声を紹介します。

・・・「私は、無意識に命令や激励などをしていたことに気がつきました。また学校でも家庭でも真赤なボールを投げつけていることにも気づきました。白いボールを返すのは努力が必要と思いますが、やってみたいと思います。」・・・「私メッセージを言っているつもりでも、おしつけていることが多かったことに気づきました。もう一度言葉を考えて話していくようにしたいと思います。」・・・「子どもの気持ちを聞くだけでなく、自分の気持ちをきちんと伝えていくことがより良い人間関係を築くことになると気がつきました。」～今後とも会員のニーズに応える研修を企画し、資質の向上に努めていきたいと思っています。



## 平成25年度 学校保健功労者文部科学大臣表彰を受けて



佐野市立北中学校 佐藤 静江

昨年11月、秋田県において開催された、第63回全国学校保健研究大会において、文部科学大臣表彰という身に余る賞を受賞して参りました。これまで、教員生活の大部分を小学校で過ごし、中学校での勤務は7年目という未熟な私ですが、与えられた職場で、子どもたちや学校のために自分にできることを実践してきました。勤務校に恵まれ、先生方や子どもたちにも恵まれ、子どもの姿から学んだことや様々な体験を通しての学びが自分を育ててくれたように思います。出会った多くの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。また、本研究会においても、本部役員として関わらせていただき、会員の皆様との出会いを通して「養護教諭の職務」についてより深く学ぶことができました。今後も、子どもたちや教職員にとっての保健室を目指し、新たな課題と向き合いながら、常に「学ぶ」ことを忘れず前向きに職務に専念していきたいと思っております。



### とちぎ思春期研究会の活動紹介



とちぎ思春期研究会は、思春期の子ども達の発達に伴う心や身体の変化、諸問題について研究することと、会員の共通理解と相互連携を図るために、研修、情報交換、調査研究、情報発信等の事業を行うことを目的として発足し、25年目を迎えました。

#### ◆第65回保健文化賞受賞◆

平成9年から12年にかけて栃木県の10代の人工妊娠中絶率が全国ワースト1位となった時、とちぎ思春期研究会が中心となり地域・学校・医療・福祉などの多様な領域の関係者が連携し、全国に先駆けて思春期ピアカウンセラーを養成し、同世代による性の健康教育や相談活動に取り組み、人工妊娠中絶率の上昇に歯止めをかけたことなどにより、25年10月、第65回保健文化賞を受賞いたしました。

#### ◆月例研修会の開催◆

平成25年度は、とちぎ思春期研究会の研修テーマを『現代の若者の心理と行動を学ぶ：円滑な思春期相談・支援のために』と掲げ、年に3回の月例研修会を開催しました。

##### ○総会及び第182回月例研修会 平成25年7月13日（土）

『思春期の若者への心理カウンセリングの実際をとおして～思春期の心に添うために～』

講師 首都大学東京人文科学研究科・学生サポートセンター 教授 渡部 みさ 先生

##### ○第183回月例研修会 平成25年11月17日（日）

『ワールド・カフェを通して、変わりゆく思春期の子ども達への理解を深め、

円滑な思春期相談・支援のあり方を探ろう！！』

情報提供者(スパーバザー) 日本家族計画協会クリニック所長 北村 邦夫 先生

##### ○第184回月例研修会 平成26年2月15日（土）

『望まない妊娠への支援について～10代の妊娠への対応法を探る』

講師 首都大学東京 看護学科 教授 安達 久美子 先生(助産師)

#### ◆入会のお勧め◆

栃木県養護教育研究会もとちぎ思春期研究会も、思春期の子ども達の健やかな成長を願うという目的は同じです。養護教諭だけでなく医師や看護師、助産師、保健師、行政関係者など様々な職種の方々が集まるとちぎ思春期研究会の活動にもぜひ参加してみませんか？（年会費：3,000円）



## 調査研究委員会の活動について

調査研究委員会では、平成25年度と26年度の2年間、「個別の保健指導を考える」というテーマの下、研究に取り組んでいます。平成25年度は、個別の保健指導の基本的な流れについて考え、実践するためにどのような活動が必要か、どのようなことが課題になっているのかについて研究し、しろたえの特集としてまとめました。

この研究を通して、日常におこなっている保健指導を目に見える形で実践しようとする、難しいということに気が付きました。しかし、活動を明文化することでたくさんの方が見えてきました。

今年度は、その課題や成果をもとに、実践に取り組みたいと考えています。特集内容が会員の皆様の執務のお役に立つことを願いながら研究をしておりますので、地区委員を通して特集の活用状況や、成果と課題、特集についてのご意見等お寄せいただければ幸いです。なお、特集の資料については、ホームページに掲載してありますので、ぜひご活用ください。

(調査研究担当 阿由葉)



## 栃木県養護教育研究会ホームページについて



平成24年4月に栃木県養護教育研究会ホームページが開設され、本年度で3年目を迎えます。「研究会の案内」や、「全国養護教諭連絡協議会からのお知らせ」に加え、昨年度から「とちぎ思春期研究会」からのお知らせもご覧いただけるようになりました。

また、各地区のパスワードでログインしていただくと、各地区の研修会等の案内や活動報告がご覧いただけます。地区内の保健室の様子が紹介されていたり、各学校のホームページへリンクできたりと、地区によって様々な活用がされているようです。運営に関わっていただいている先生方には、お忙しい中大変有難うございます。

近年、学校ホームページの活用により、保健室からの情報が様々なかたちで発信されるようになっていきます。各種通知やほけんなどのダウンロードができるだけでなく、児童生徒の活動の様子や感染症流行情報等もホームページに掲載されている学校もあります。それらを参考にしながら、本研究会ホームページも会員の皆様にとって有効な情報ツールとなりますよう運営していきたいと思っておりますので、多くの会員の皆様にご覧いただき、ご意見をお聞かせいただければと思います。

(ホームページ担当 佐川)

### 第3回 レベルアップ研修会のお知らせ

3回目となる今年は、救急処置の講演では定評のある講師と、NHKにも出演したことのある講師をお招きして開催します。そのため、例年500円で開催するところ1,000円の参加費となりますが、レベルアップできること間違いなしです。多くの先生方の参加をお待ちしています。

●期日 8月21日(木) ●会場 栃木県立博物館 講堂 ●参加費 1,000円

●講演内容

①フィジカルアセスメント 千葉大学医学部臨床教授 北垣 毅先生(月刊誌『健』でおなじみ)

②子ども達との関わり方 昭和大学保健医療学部准教授 副島 賢和先生(NHKプロフェッショナル仕事の流儀に出演:赤鼻先生)





